

## 自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

学校名 岐阜市立岐阜特別支援学校

テーマ 小中高の支援と職員を繋ぐ校内研修  
～個と組織のニーズに応じた学びと場づくり～

## 取組のポイント・成果

## ①令和7年10月1日(水) 15:20～16:50

オンライン講演会「児童生徒の多様性対応と職員室内の多様性を考える時間」

講師：DE&Iコンサルタント・Demo代表 武田緑氏

本研修は、事前に実施した職員アンケートにおいて「チーム担任制について学びたい」という意見を受け、ワークショップを含む講演会として実施した。環境整備や事前的改善措置、合理的配慮を特定の児童生徒への個別対応にとどめるのではなく、前提や“当たり前”そのものを見直していくことが公平・公正につながるという視点を学んだ。また、個人モデルではなく、社会モデルで考えることから、教室や学校でできそうなこと、やってみたいことを考えた。さらに、学校現場でよく見られるエピソードをもとに、冰山モデルを意識しながら事象の文脈を考え、対話を通して互いの考えや思いを交流した。



## ②令和7年12月12日(金)

富山大学教育学部附属特別支援学校「公開教育研究会」への参加(2名)

研究テーマ「ウェルビーイングを実現する学校づくり ～子どもたちのウェルビーイングを実現していくための授業づくり～」

2名の職員が公開授業、分科会、講演会に参加した。以下は参加者の感想である。

生徒が主体的になる授業の仕組み方、家庭科や社会科といった要素も含みながら教科横断的な学びの仕組み方などを学ぶことができた。本校と同じように生成AI(Copilot)を使って業務改善を図ろうと模索をされていた。

子どものウェルビーイングを実現するための授業作りをするために、なぜその学習をするのかを、子どもの希望や夢を出発点に考えていた。単元を通して付けたい力を明確に授業に取り組むので児童生徒の意欲も高い。発語が無い、表現が難しい児童生徒の希望や夢を汲み取れる教師でありたいと思った。

- 講師からの問いにより、職場で感じている信念的な対立について考えたり、働く上での自分自身の欲望“Wanting”(脳科学用語)を見つめたりすることもできた。「児童にも職員にも、自分の思い込みではなく、いろいろな角度から見ていくことで、冰山モデルにある下の方の相手の思いや考えが見えてくると感じました。また、そうすることによって、共感や寄り添いができるようにしていきたいと思いました。」
- 公開教育研究会に参加して学んだ、「児童生徒への支援の在り方」や「業務に関わる文書作成における生成AIの活用の仕方」について校内で共有し、職員の活用につなげた。

## 今後の課題

- 今後も児童生徒の実態、職員のニーズを把握しながら、授業づくり、ICT活用、日常生活の指導などの分野についても学ぶ機会を設けていく。
- チェックシートや県の指標等で、研修での学びの活用を目に見える形で確認できるようにする。